

2021年
6月28日
月曜日

堀 敬一 教授（金融経済学・マクロ経済学）

ドラムを習う

1年前から近所の音楽教室でドラムを習うようになった。暇になったわけではないが、家にいる時間が増えて単調な生活を回避しなかった。コロナ禍でリモート授業が増えて時間の柔軟性が増したので、隙間の時間を活用しようと思った。

ではなぜドラムなのか。音楽が好きで色々な楽器を演奏したが、これまでドラムを演奏する経験がなかったからだ。それに加えて、今、改めて楽器のレッスンを受ける目的が2つあった。第1の目的は自分が頭の中で理解したと思うことを、きちんと形にする訓練をすることである。「わかった」と頭の中では思えても、実はきちんと理解できていない場合が多い。数学で理解できたと思っても、練習問題をやると解けないようなことは多くの人が経験しているだろう。わかったと思えるために

はもちろん今以上の勉強が必要だ。

しかし勉強量を増やせば、必ず理解度が増すわけでもないことも私は経験で知っている。何か他のチャネルはないか。楽器演奏は近いかもしれないと思った。音符は読める。もし音符が理解できているのなら、頭の中の音を再現できるはず。しかし実際には難しい。頭が思うように体が動いてくれるわけではない。

実際にやってみると最初は音符を拾うだけで必死だ。叩けると言えば叩けるが、全く気持ちよく聴こえない。しかし慣れてくるとどこでどのように叩くかが考えなくても頭に浮かんでくる。最初は次に叩く場所しか見えてなかったが、慣れてくるとドラムキット全体を見渡しながらかけるようになる。さらには音源通りではなく、自分で工夫して変えてみようと思えてくる。すると楽曲を理

解できたように思えてくる。

第2の目的は教える立場ではなく、教わる立場になることである。30年近く教員の仕事をしていて、これまで教わる立場に立ったことはなかった。そこでもう一度教わる立場になってみようと思った。しかし結論から言うとこれに関して、新たな発見は特になかった。私も昔はキツい教え方をしていたこともあったが、最近はその変化もあって、そういうやり方は放棄した。で、生徒になってみると音楽教室も同じだ。

生徒のやる気を失わせるようなことを先生は言わない。しかしつまずいた時にはアドバイスをくれる。うまくなるためには、後はアドバイスを参考に自分で練習を繰り返すだけだ。一方、レッスンを受けてみると独学は効率が悪いことに気づく。独学でできると思っただけでも、実際には

全然できていない。これまで色々な楽器を演奏したこともあるので、ドラムもある程度、すぐに演奏できると思ったが、そうではなかった。しかし教則本を使って基礎を学び、先生のアドバイスを聞きながら練習すると、技術が有意に向上することを感ずる。

これは経済学の勉強も同じだ。手当たり次第に本を読んだり、ネットから知識を吸収することを全部否定するわけではないが、ベストセラーの教科書を使い、授業に出席し、課題をやることの繰り返し、理解への近道になる。音楽も経済学も世界共通の言語であるのは同じだと思おう。標準化された学習過程を辿ることで、多くの人がつまずく問題を解決できるはずだ。